

2016 年度 小委員会活動成果報告

(2017 年 2 月 6 日作成)

小委員会名	集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会		主 査 名：濱田 幸雄 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (音環境運営委員会)		委員長名：羽山 広文 主 査 名：佐久間 哲哉
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 居住者の集合住宅における要求性能水準の調査 ・ 暗騒音を考慮した空間音圧レベル差、床衝撃音レベルの要求性能の提案 ・ 「集合住宅の遮音性能・遮音設計の考え方」を AIJ-ES に移行するための実験・測定データの収集 		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有		
	濱田幸雄 (日大), 岩本毅 (三井住友建設), 大内孝子 (建設環境研究所), 大脇雅直 (熊谷組), 古賀貴士 (鹿島建設), 須賀昌昭 (住宅リフォーム・紛争処理支援センター), 坪井政義 (大林組), 浜田由記子 (大成建設), 羽染武則 (東急建設), 山下恭弘, 藤本一壽		
設置 WG (WG 名：目的)	なし		
2015 年度予算	30,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無	

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 「集合住宅の遮音性能・遮音設計の考え方」を AIJ-ES に移行するための活動の一環として、鉄道騒音の録音データを収集した。さらに、各種評価量を分析し、評価量間の相関性を明らかにした。 2. 暗騒音の影響を考慮した空間音圧レベル差、床衝撃音遮断性能に関する要求性能の重要性が活発な議論を通して確認できた。
委員会活動の問題点 ・ 課題	特になし

2016 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>音環境規準検討小委員会からの依頼事項である鉄道騒音の測定方法を検討するために、新幹線、在来線の録音データを多数収集することができた。本年度は、まず各種測定量間の相関関係を検討し、測定精度・簡便性の観点から委員会として推奨する測定量に目途をつけることができた。次年度、聴感実験の結果を踏まえて、最終的な提案をする予定である。</p>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。